

総合文化研究所・国際日本学研究院 連続文化講演会

報告 柴田勝二

日時…①二〇一五年二月一〇日(木) 一七時五〇分～一九時

②二〇一五年二月一七日(木) 一七時五〇分～一九時

場所…総合文化研究所 会議室

講演者…デイヴィッド・ヒューズ(二月一〇日、ロンドン大学 SOAS・本学招聘教員)

「私の民謡研究について」

イリス・ハウカンブ(二月一七日、ロンドン大学 SOAS・本学招聘教員)

「草創期の国際合作映画——日本とドイツ、共同映画制作における歩み寄り」

本連続講演会は、ロンドン大学 SOAS より招聘教員としてお迎えしているデイヴィッド・ヒューズ、イリス・ハウカンブの両先生に、それぞれ専門としておられる領域に関する主題について語っていただくという形で、二週にわたっておこなわれた。比較的急に企画された講演会であったにもかかわらず、大学院生を中心として総合文化研究所会議室が満杯になる程度の聴衆があり、盛況のうちに終えることができた。

デイヴィッド・ヒューズ先生の「私の民謡研究」は、青年期に日本の民謡の魅力にとりつかれ、その後四〇年以上その修行

と研究に取り組んでこられた経験を、ユーモアを交えて巧みな日本語で語ったものであった。〈西洋人〉が民謡に興味を示し、さらにそれをみずから歌い、あるいは伴奏楽器である三味線を奏でる修行をするといった取り組みは、奇異に見られることも少なくなかったようだが、同時にその珍しさも手伝って、テレビ・ラジオなどのメディアにも数多く登場し、民謡の文化としての普遍性を PR することにもなったようである。その際にヒューズ先生が同席することになった多くの芸能人のエピソードも面白く、たとえば金沢明子が「ジーン民謡歌手」として人気を博することになった経緯なども興味をそそられた。

金沢明子の例に見られるように、とくに若い世代には〈古くさい〉文化とも見られがちな民謡を、単に保存して伝えていくだけでなく、どのように現代の文化としてアレンジして青少年を含む幅広い層に楽しんでもらうかということは、伝統文化の伝達一般にも関わる重要な問題である。和服ではなくセーターやTシャツにジーンパンといったスタイルで民謡を歌った金沢明子の試みはその一つであったが、一九七〇年代から八〇年代にかけてのフォークソング・ブームは「ふるさと」への郷愁という主題を含むこともあって民謡との親和性をもっていた。代表的なフォーク歌手である岡林信康は八〇年代に民謡のリ

ズムを取り入れて独自のロック「エンヤトット」を作り上げ、各地で公演をおこなっている。岡林の試みは音楽面で現代歌謡と民謡の両方の可能性を拡げようとする意味をもっていた。一九六〇年に設立された日本民謡協会では現在も若い世代に民謡を普及すべく、少年少女を対象とした講習会やコンクールを積極的に催している。

こうした民謡の伝達と現代化の模索の問題を話されながら、ところどころで長年修行された民謡を部分的に披露された。プロ顔負けの音量と節回しに聴衆は圧倒され、民謡という文化の息吹を直接感じ取ることができた。

イリス・ハウカンブ先生の「草創期の国際合作映画——日本とドイツ、共同映画制作における歩み寄り」は一九二〇年代における日独協同による映画制作の様相について語られたもので、〈日本〉をドイツという西洋の国に紹介することにもなうアイロニーを浮き彫りにしていた。〈日本〉は当時のドイツにおいてもサムライ、ハラキリ、ゲイシャのイメージで捉えられるもので、それに沿った映画作りがされていた。それはもちろん同時代の日本の姿を伝えるものではないが、そうしたオリエンタリズム的なイメージを前景化することによってでない〈日本〉がドイツの観客に伝わりにくく、一九二六年の『武士道』はまさにそうした前提によって制作されていた。

一九三二年の『Nippon』は、天平時代、戦国時代、現代という三つの時代をそれぞれ舞台とする『沙弥磨』『篝火』『大都会』という三本の短編映画をまとめて制作されたものだが、一五〇〇年代を舞台とする『篝火』に当時存在しない吉原が登場するなど、時代考証は正確ではない。この時代設定はドイツ

における騎士道の時代が一五〇〇年前後だからで、軍事的な連携を強めつつあった当時において、「騎士」と「武士」のアナロジーを強調することが企図されていた。『大都会』は現代を舞台とし、鉄道技術の発展を推進しようとする主人公を描くものの、〈西洋〉との差違の乏しさゆえに不評判に終わった。

こうした文化紹介にもなう困難さがわかりやすく語られ、適宜紹介される二、三〇年代の映画の映像も普段眼にしないものであるだけに、聴衆の興味を掻き立てていたようである。お二人の講演はともに〈日本〉と〈西洋〉をいかに架橋するかという問題をはらんだもので、外語大の学生、院生、とくに聴衆の大半を占める留学生にはきわめて有益であったと思われる。

連続文化講演会

総合文化研究所・国際日本学研究院 共催

1) 2015年12月10日(木) 17:50~

「私の日本民謡研究について」

講師：ディヴィッド・ヒューズ氏
(ロンドン大学 SOAS, 本学招へい教員)

場所：総合文化研究所 (422)



2) 2015年12月17日(木) 17:50~

「草創期の国際合作映画—日本とドイツ、共同映画制作における歩み寄り」

講師：イリス・ハウカンブ氏
(ロンドン大学 SOAS, 本学招へい教員)

場所：総合文化研究所 (422)



連絡先 Tel : 042-330-5409
E-mail: tufs422ics@tufs.ac.jp

150th
anniversary TUFSS
1973-2023